

東京発「効果のみえる生活期リハ評価表(訪問版)」活用への期待

1) 東京都作業療法士会生活期リハ評価表プロジェクト委員
小林幸治¹⁾・中本久之¹⁾・長井陽海¹⁾・山本麻子¹⁾・猪股英輔¹⁾・松岡耕史¹⁾・平野彩¹⁾・鈴木絵里子¹⁾

【背景・開発の経緯】生活期リハ重視への流れは、回復期リハを手厚くし、最大限の機能回復と社会復帰を目指すために日常生活活動(ADL)の自立に向けた関わりを重点的に実施して自宅退院を果たしても、その後のリハ的な視点による継続的支援がなければ能力低下を生じることが明らかになったためとされる。訪問リハは、いぜん地域格差は大きいですが、訪問系の社会資源として認知され、活用されるようになってきた。しかし、その反面、近年、在宅という当事者の生活環境における介入にも関わらず、機能訓練しか行われないケースや、評価が乏しく効果も明らかでないまま漫然と継続されるケースが多いと指摘されるようになった。国の施策では、今後、訪問リハに期限付きを導入するとしている。こうした情勢に対し、東京都の理学療法士(PT)・作業療法士(OT)・言語聴覚士(ST)三士会長会議で、訪問版の評価表を作成する合同プロジェクトが立ち上げられた。実際の作業では、あらためて日ごろ密に連携を行っていると感じていた職種間での価値観の違いに気づかされ、共通の指標を作成するため1年半以上を費やして打ち合わせを行った。しかし、その過程であくまで焦点は利用者本人の生活であり、この時期の利用者は右肩上がりばかりではないが、訪問リハによって生活しやすくなることがよく実感されており、そのことを表せる指標としようということへ共通認識をもつに至り、表記評価表の第1版が完成した。

【評価表の特徴】この評価表のねらいは、(1)利用者のニーズ(生活行為)を捉えて、生活行為を実際に行っている状態を示し、時期や援助による本人の中での変化を示す、(2)能力と環境の関係から生活行為をどのように行っており、本人がその状況をどう捉えているかを表す、(3)1日の過ごし方、行っている環境、趣味・余暇活動、家庭内の役割、外出、コミュニケーション等もみることである。

【目的】評価表プロジェクトOTチームは、平成26年10月、11月と都OT学会ワークショップ、研修会で評価表の概説を行った。参加者に、実務に使用する上での感想や改良点と考える箇所についてのアンケートを実施した。実務者に活用してもらえる評価表であるか、より使いやすさを高めるにはどういった課題があるかを検討する。

【方法】開発時に、暫定版を用いて都内で訪問リハに携わっているPTOTST20数名に実際の利用者に対し試用してもらい、記入した評価表の提出も求め、意見を聴取した。また臨床15年以上、生活期リハでリーダー立場のPTOTST6名に評価表・マニュアルの添削を依頼し、以上で出された意見を反映した。今回、実際に使えそうか、みた印象、使う場合はどんな用途か、改良してほしい点、を聞いた。ワークショップ、研修会共に同一アンケートを使用した。

【結果】回答数は75件であった。詳細は当日示す。全体には、やや細かく慣れが必要という意見と、見落とさず見ていく視点がえられるが、介入優先度を付けるには経験値が必要だろうという意見が多かった。

【考察】引き続きプロジェクトを継続し、訪問リハの効果を示すことに寄与したい。

【ダウンロード先】東京都作業療法士会・理学療法士協会・言語聴覚士会の各ホームページ